

2023. 1. 22 (日) 使徒6:11~15

6:11 そこで、彼らはある人たちをそそのかして、「私たちは、彼がモーセと神を冒瀆することばを語るのを聞いた」と言わせた。

6:12 また、民衆と長老たちと律法学者たちを扇動し、ステパノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。

6:13 そして偽りの証人たちを立てて言わせた。「この人は、この聖なる所と律法に逆らうことばを語るのをやめません。

6:14 『あのナザレ人イエスは、この聖なる所を壊し、モーセが私たちに伝えた慣習を変える』と彼が言うのを、私たちは聞きました。」

6:15 最高法院で席に着いていた人々が、みなステパノに目を注ぐと、彼の顔は御使いの顔のように見えた。

#### <説教>

初代教会の中で、やもめや困窮している人たちのために、毎日食べ物やお金を必要に応じて分配する奉仕のために選ばれた七人の中の一人がステパノでした。毎日の配給の奉仕をしながらステパノは主イエス・キリストの恵みと聖霊の力に満ちて大いなる不思議とするしを行っていました(6:8)。主イエス・キリストの証人として人々によく仕え、またイエスがキリストであることを教え、宣べ伝えていました。

そんなステパノに対して〈リベルテンと呼ばれる会堂に属する人々、クレネ人、アレクサンドリア人、またキリキアやアジアから来た人々が立ち上がって、〉〈議論〉をしました。〈ギリシア語を使うユダヤ人たち〉で熱心なユダヤ教徒だった彼らの主張は、「イエスはキリストではない」ということだったのでしょう。そんな彼らの中からユダヤ教の知識と説得力に長けた「選りすぐり」の人々がステパノと議論したのだと思われます。それをステパノは受けて立ち、ステパノに彼らは対抗することができませんでした(10)。なぜならステパノが〈知恵と御霊〉(10)によって語ったからです。ステパノの知恵は、御霊が与える知恵、御霊によって働く知恵でした。

この時の議論の場にキリキアのタルソ出身のサウロ(後の使徒パウロ)がいたことはほぼ間違いなく、更には実際にステパノと差して議論した可能性もあります。後に主イエスと出会い、キリスト者とされ、使徒とされたパウロは、どうしてあのとき自分(たち)はステパノに対抗することができなかったのかを悟りました。「ステパノのことばと彼の宣教は、説得力のある知恵のことばによるものではなく、御霊と御力の現れによるものであった。」(cf. I コリント2:4)からだ、と。

さて、ステパノに議論を挑んで負けたはよほど悔しかったのでしょうか。〈そこで、彼らはある人たちをそそのかして、「私たちは、彼がモーセと神を冒瀆することばを語るのを聞いた」と言わせ〉(11)ました。「ステパノがモーセと神を冒瀆する言葉を語った」ことなどあるはずもないことは、この後ステパノが語る説教(7章)を聞けばわかります。

そうやって悪意ある嘘の「うわさ」を流し、〈民衆と長老たちと律法学者たちを扇動し、ステパノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行〉きました(12)。この前には使徒たちを捕らえて尋問し、「イエスの名によって語ってはならない。」と命じた、あの最高法院(サ

ンヘドリン) にステパノもまた引き出されることになりました。最高法院もステパノが使徒たちと同じ仲間であり、イエスの名によって語っているということを知り、「それはけしからん」ということにもなったのでしょう。

ステパノを訴えた人々は、〈そして偽りの証人たちを立てて言わせた。「この人は、この聖なる所と律法に逆らうことばを語るのをやめません。『あのナザレ人イエスは、この聖なる所を壊し、モーセが私たちに伝えた慣習を変える』と彼が言うのを、私たちは聞きました。〉(13,14) 前に使徒たちが捕まえられたときとは違い、今度はわざわざ〈偽りの証人たちを立てて言わせ〉ることまでしました。このような悪意ある裁判の様子は、かつて主イエスが受けたのととてもよく似ています。〈さて、祭司長たちと最高法院全体は、イエスを死刑にするためにイエスに不利な偽証を得ようとした。多くの偽証人が出て来たが、証拠は得られなかった。しかし、最後に二人の者が進み出て、こう言った。「この人は、『わたしは神の神殿を壊して、それを三日で建て直すことができる』と言いました。〉(マタイ 26:59-61)。

かつて今もイエスのことを、自分たちユダヤ教の宗教的伝統を否定する異端、「律法違反者」と見なし、また自らを神の子、キリストと主張する「神冒涇者」と見なし、また自分たちに向けられていた民衆の尊敬を横取りしてしまったと見なしてねたみ、憎み拒み、イエスを信じないで裁判にかけたユダヤ人と最高法院でした。ですから、そのイエスをキリストと告白し語り教えるステパノにも当然、イエスに向けたのと同じ態度で向かうことになりました。「しもべは主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたも迫害します。彼らがわたしのことばを守ったのであれば、あなたがたのことばも守ります。」(ヨハネ 15:20) とイエスは言われました。ステパノもイエスに従う、イエスの忠実な弟子であり、イエスの立派な兵士(Ⅱテモテ 2:3)でした。

そんなステパノは(使徒たちと同じように)、捕らえられ、ありもしないことで言いがかりをつけられ、裁判にかけられましたが、がっかりしたりうろたえたりおどおどしたりすることはありませんでした。〈最高法院で席に着いていた人々が、みなステパノに目を注ぐと、彼の顔は御使いの顔のように見え〉ました(15)。それはいきいきとした、晴れ晴れとした明るい顔でした。それは、これまで見て来たように、彼が〈御霊と知恵に満ち〉(3)、〈信仰と聖霊に満ち〉(5)、〈恵みと力に満ち〉(8)、〈知恵と御霊〉(10)に満ちていたからにはほかなりません。そして〈御使い〉とはもちろん「神の使い」ですから、彼はそこに「神によって遣わされた者」として立っていたということです。彼のうちには聖霊がいてくださっている、主イエス・キリストが聖霊によって共にいてくださっているという確かな信仰がありました。「人々があなたがたを引き渡したとき、何をどう話そうかと心配しなくてもよいのです。話すことは、そのとき与えられるからです。話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあって話される、あなたがたの父の御霊です。」(マタイ 10:19-20)、「あなたがたに反対するどんな人も、対抗したり反論したりできないことばと知恵を、わたしが与えるからです。」(ルカ 21:15)というイエスのみことばを信じ切っていました。そしてイエスの後につき従おうとしたのです。

私たちもステパノのように、聖霊の力によって、主イエスの〈御使い〉としてこの罪の世に遣わされて行き、その置かれた場所で主イエスの証人とさせていただきます。